

平成 31 年度(令和元年度)活動報告(案) -2020 年 04 月 17 日(金)-

庶務担当 齊藤雅一

1. 総会関係

平成 31 年度総会を平成 31 年 4 月 19 日(金)、ハロー貸会議室秋葉原駅前ルーム B にて 17:30~18:30 の時間帯で開催した。来賓として日臨技副会長の長沢光章様、私立医大技師長会副会長の三浦ひとみ様にご挨拶をお願いした。議長は東京慈恵会医科大学附属病院の池田勇一技師長をお願いした。参加人数は 19 名であった。

2. 研修会関係

(1)機器試薬セミナーを平成 31 年 4 月 19 日(金) 総会終了後に 18:30~19:30 の時間帯で開催した。まず、「院内血糖管理における SMBG のリスクと POCT 器の重要性~SSI などのエビデンスから~」と題してライフスキャンジャパン株式会社の宮崎浩明 氏に講演をお願いした。次に、「IgG4 関連疾患と血清 IgG4 の測定意義」と題してニッポーメディカル株式会社の松木友理 氏に講演をお願いした。どちらも日常検査に役立つもので、興味深い内容であった。参加人数は 23 名であった。

(2)自動化学会第 51 回大会での共催セミナーを令和元年 10 月 5 日(土)、パシフィコ横浜にて、テーマを「災害医療と臨床検査 ~精度はどこまで必要か~」と題して 13:00~15:00 の時間帯で開催した。まず、日本医科大学 救急医学教室の萩原 純 先生に「災害時、医師は臨床検査に何を期待するのか ~どうしても知りたい検査項目~」、次に、近畿大学病院 中央臨床検査部の津田喜裕 技師に「災害時に精度保証できますか?」、更に、アルフレッサ株式会社の 高橋 誠 氏に「災害時における流通体制について」と題して 3 名の講師に講演をお願いした。災害時における検査の重要性を再認識する内容であった。200 名程度の参加者があり、盛況に終了した。

(3)第 37 回学術研修会を令和元年 11 月 9 日(土)、株式会社堀場製作所 2 階会議室にて 10:00~16:30 の時間帯で開催した。メインテーマは「データを見る」で、午前は「ゲノム医療の現状と今後の大学病院の関わり方」と題して、アルフレッサ株式会社の神菌修司 氏に教育講演をお願いした。今後、ゲノム医療が重要性を増し、医療従事者の職域が広がり人材育成が必要であるとの内容であった。

ランチセミナーは、まず、「超音波を用いた新たな肝組織硬度による評価 -ACUSON Sequoia での進歩」と題して、藤田医科大学臨床検査科の刑部恵介 先生をお願いした。肝臓の繊維化の程度を客観性のある数値として評価するという興味深い内容であった。次に、「糖尿病神経障害の早期発見に ~神経伝達検査装置の活用~」と題して、フクダ電子株式会社の筧川成美 氏をお願いした。神経伝達検査装置の使用手法、測定原理等の紹介であった。

午後のシンポジウムは 13:30~16:00 の時間帯で「データを見る」と題して 3 名のシンポジストに生理機能検査についての内容で講演をしていただいた。①「神経伝達検査」について、帝京大学医学部附属病院の星野 哲 技師に、②「呼吸機能検査」について、日本大学医学部附属板橋病院の伊佐浩紀 技師に、③「心臓超音波検査」について、東京女子医科大学病院の高野一成 技師をお願いした。生理機能検査における日常検査に役立つ内容ばかりであった。参加人数は 47 名であった。

(4)初学者のための心エコー基礎講座を 4 回開催した。(1 回目:7 月、参加者 48 名、2 回

目:9月、参加者 37 名、3 回目:11 月(学術研修会にて実施)、4 回目:1 月、参加者 20 名)

3. 会誌『KAMERADEN』の発行

『KAMERADEN』は 69 号(第 37 回学術研修会抄録集との合併号)を令和元年 10 月に、70 号を令和 2 年 3 月に発行した。

4. 会議関係を 9 回、編集委員会を 2 回開催した。なお、詳細は『KAMERADEN』掲載の議事録を参照していただきたい。

5. その他

経費節約として『KAMERADEN』69 号と第 37 回学術研修会抄録集を合併号とした。また、技師会の向上を図るため、活動内容をホームページに表示し、会員・賛助会員に説明する機会を設けた。研修会関連では自動化学会との共催セミナーの実施、心エコー基礎講座を 4 回開催して多くの検査技師が参加出来るよう工夫した。